

## 3.2.15 新世代モバイル研究開発プロジェクト（DP）

|            |  |
|------------|--|
| 中期計画期間全体   | 目 標  |
|            | 新世代モバイル研究開発プロジェクトは、次世代の移動通信システムを対象に、多種多様な無線通信サービスを利用者が意識することなく、柔軟に選択し、安心して利用するための技術開発を目標とする。   |
|            | 目標を達成するための内容と方法<br>主要技術課題として、(1)無線セキュリティプラットフォーム技術、(2)メディアハンドオーバー技術、(3)無線アクセスの3課題を選定し、研究開発を実施。共同研究を行うためのコンソーシアムを組織し、横須賀リサーチパークにテストベッドを構築し、新しい技術の実証実験を行う。   |
|            | 特 徴  |
|            | 新世代モバイル研究開発プロジェクトは、主要技術課題の研究開発を行う三つの研究グループ、企画及び計画の推進を行うプロジェクト推進室、これらをまとめる統括リーダーとの体制で実施。また、外部有識者からなるサポートメンバー会議、共同研究を実施するコンソーシアムを組織している。   |
| 今年度の計画及び報告 | 今年度の計画   |
|            | 新世代モバイル研究開発プロジェクトの初年度として、プロジェクト全体の設計、実行計画の策定、人的資源の発掘、共同研究や研究委託等の戦略の策定及び連携確立、研究体制の整備、内外への広報活動等を実施するほか、研究事前評価、中間評価等の体制の確立と実施を推進する。   |
|            | 今年度の成果   |
|            | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新世代モバイル研究開発プロジェクトの立ち上げとして、研究計画書の策定を行った。</li> <li>(2) 第103回研究発表会、アジア太平洋移動体通信ワークショップ（AP-NeGeMo）、電波高度利用シンポジウム等での研究計画の講演、サポートメンバー会議の開催を行った。</li> <li>(3) 関連する企業研究所を訪問しプロジェクトへの協力、共同研究、研究委託の実施を依頼した。個別の研究連携に加えて、YRP研究開発推進協会での共同研究提案を行った。</li> <li>(4) 北欧との研究連携のほか、アジア地域の連携を図った。シンガポール無線通信ラボラトリー開設、北京郵電大学ほか中国との連携、韓国ETRIとの連携は具体化しつつある。その他マレーシア等話合いが進行中のものもある。</li> <li>(5) 標準化活動は情報収集の段階であり、研究機関とは情報交換を実施した。</li> <li>(6) パンフレット作成、ホームページの整備、報道発表、会議開催時の展示を行い広報活動を強化した。</li> <li>(7) 各主要技術課題に関する研究成果の詳細は、ワイヤレスアプリケーショングループ、モバイルネットワークグループ、ワイヤレスアクセスグループの報告を参照されたい。</li> </ol> |